

A350F型20機を発注、29年から受領

■AAWW、大型貨物機の供給逼迫に備え

米アトラスエアーワールドワイド・ホールディングス（AAWW）は16日、エアバスに対しA350F型20機を確定発注したと発表した。さらに20機の追加購入オプションも確保した。これによりAAWWはA350F型機の最大顧客となり、早期の引き渡し枠を確保した。2029年に受領開始し、34年までに全機引き渡しを完了する予定だ。旧型ワイドボディ貨物機の退役加速と新規供給が限定的であることを背景に、今後の大型貨物機市場の供給制約に備える狙いもある。これまでボーイング機を主力にしてきたAAWWにとり、エアバス機の大量導入は機材戦略上の大きな転換期となる。

現在、AAWWの保有機は、ボーイングの747、777、767系を中心とする計113機。主力機のうちB747F型機については22年に新造機の製造が終了しており、23年に最後のB747-8F型機がAAWW傘下のアトラス・エア（GTI）へ引き渡された。今回、A350F型機発注を発表した公表画像では、GTI塗装機のイメージ図が示されており、GTIでの運用が想定されている可能性がある。

A350F型機にはロールス・ロイス製「トレントXWB-97」エンジンを搭載。高いペイロード性能と航続距離、燃費効率を備え、世界の貨物・チャーター市場での顧客ニーズへの対応力を高める。AAWWは今回の発注を「長期的な機材戦略の中核となる投資」と位置づけており、保有機材の近代化と持続的な収益成長につながる」と期待感を示す。

AAWWのマイケル・スティーン最高経営責任者（CEO）は「次世代大型貨物機プラットフォームであるA350Fの最大顧客となり、早期の引き渡し枠を確保できたことを誇りに思う。A350Fはペイロードや航続距離の面で優れ、信頼性と環境性能にも優れる。エアバスとロールス・ロイスを新たなサプライヤーとして迎えることで、運航の柔軟性を高め、今後の成長を

支える」などと述べた。

また、「旧式ワイドボディ貨物機の退役が加速する一方、新規供給は限定的で、大型貨物機市場は今後も供給制約が続く見通しだ」（以下、スティーンCEO）と市場全体の課題を指摘。「今回の戦略的投資は、世界の航空貨物需要の長期的成長に対する当社の確信を示すものであり、将来の需要拡大に対応する体制を整えるものだ」と強調した。

A350Fは27年に発効する国際民間航空機関（ICAO）の二酸化炭素（CO₂）排出量を規制する世界初のグローバル設計認証基準を完全に満たす唯一の貨物機とされる。業界最大級のメインデッキ貨物ドアを備え、標準パレットやコンテナに最適化した胴体設計を採用。先進素材を使用した機体構造により、離陸重量の軽量化も実現している。

AAWWは今回の新機材の導入に伴い、ワイドボディ機の運航機会が増加し、パイロットをはじめとする航空業界の人材のキャリア創出機会拡大や、運航体制の強化にもメリットを見込む。

現在、AAWW傘下にはGTIのほか、タイタン・アビエーション・ホールディ

ングス、ポーラー・エアカーゴ（PAC）を擁し、世界で約5000人の従業員を抱える。PACについては、25年2月にDHLエクスプレスとの合併事業を解消している。DHLは07年にPAC株式49%を取得し、PACは大型貨物機でDHLの太平洋路線などを担ってきたが、両社の戦略的方向性の見直しを背景に合併事業の解消に至った。現在はAAWW傘下で運営が継続されている。現在、世界90カ国・300以上の都市で事業を展開し、B747F型機の保有数では世界最大だ。

AAWWは23年3月下旬に、米アポロ・グローバル・マネジメント（アポロ）関連会社によるファンド、J.F.リーマン&カンパニーおよびヒル・シティ・キャピタルの投資関連会社が率いる投資家グループ（以下、コンソーシアム）により買収され、ナスダックから上場停止。現在は非公開企業となっている。



16日、仏トゥールーズで調印式が行われた



アトラス・エア向けA350F型機イメージ